

●圖解

第一版 第一圖ハ合戸峠ヨリ西方ニ御岳火山ヲ望ム、合戸峠

ハ福島町ヨリ御岳火山ノ東麓ニ在ル黒澤村ニ至ル峠中黒澤ニ近キモノ。

第二圖ハ板敷野ヨリ西方ニ御岳山頂ヲ望ム、板敷野ハ中仙道ニ沿ヒ王瀧川ノ木曾川ニ注グ所ニ在ル村落ナリ此所ヨリ王瀧川ノ渓谷ヲ通ジ御岳山頂ノ一部ヲ望ムヲ得。

第二版 地藏峠ヨリ西南ニ御岳ヲ望ム、地藏峠ハ西野村ヨリ

福島町ニ通ズル峠中最モ高キモノニシテ御岳ノ峯背ハ充分ニ展望スルヲ得レドモ太古層ノ山麓ハ前山ニヨリテ遮ラル。

第三版 西野村ヨリ南方ニ熔岩臺地ヲ望ム、西野村ハ御岳ノ東

東北麓ニ在リ同所ヨリ南方ヲ望メバ御岳山頂ヨリ東方ニ緩斜ヲナシ突出スル一臺地ヲ見ル、之レ摩利支天第六式熔岩ヨリ成レル臺地ニシテ字ヲ倉越ト云フ「クラ」トハ岩壁ト云フ意ナリ。

第四版 日和田村ヨリ南方ニ御岳ヲ望ム、日和田村ヨリ御岳

火山ヲ望メバ其ノ北方ニ位スル繼子岳ニヨリテ其ノ南方ノ山峯ハ全ク遮断セラル、又同圖ニヨリテ繼子

熔岩ガ摩利支天熔岩及太古紀水成岩ノ水蝕ニヨリテ生ゼル溪谷ヲ貫流シテ山麓ニ達セルヲ知ルヲ得。

第五版 劍ヶ峰（御岳ノ最秀峰）ヨリ北方御岳山上ノ小火口ヲ望ム。

第六版 第一圖ハ一ノ池々底ヨリ東南ニ劍ヶ峯ヲ望ム、圖ニ向テ右方漸々ニ高サヲ減ズルハ地獄谷ノ破裂ニヨリテ破壊セラレタルナリ。

第二圖ハ劍ヶ峯北方山側ヨリ西ニ二ノ池ヲ望ム、二ノ池ニ向ツテ斜下スル山側ハ一ノ池火口壁ノ外側ナリ。

第七版 第一圖ハ三ノ池火口趾ニシテ溜水四時絶ユルコトナシ此圖ハ南方ノ高所ヨリ望メルナリ。

第二圖ハ摩利支天峯ヨリ北方ニ四ノ池ヲ望メル圖ニシテ岩層ノ判然タルモノハ繼子熔岩第一式ニ屬スルモノナリ。

第八版 地獄谷爆裂火口ノ北壁ニ立チテ南方ヲ望メル圖ニシテ繼子岳及白川爆裂火口ヲ隔テ、遠ク阿寺連脈ノ臺地的地貌ヲ見ル。

第九版 三笠寄生火山ノ山頂ヨリ御岳火山ノ山頂ヲ望ム。

第十版 屋敷野ヨリ西方ニ御岳火山ヲ望ム、屋敷野ハ黒澤ヨリ御岳山頂ニ達スル通路ニ沿ヘル小部落ニシテ湯川

放射谷ノ右岸ニ在リ、黒澤ヨリ約一里。

第十一版 御岳火山東北ノ裾野ヨリ同火山ヲ望メル圖ニシテ
本火山地域唯一ノ平坦地ナリ。

第十二版 第一圖ハ摩利支天第六式岩熔中最上部ヲ占ムル角
閃富士岩ヲ平行「ニコル」ニテ見ル、擴大二十倍、
角閃石ノ多量ナルニ注意スベシ。

第二圖ハ摩利支天第六式岩熔中ノ斑晶斜長石ヲ攝
氏四十度ノ稀硫酸中ニ七時間浸シ酸ノ斜長石ニ働
ケル程度ヲ示ス。

第十三版 第一圖ハ摩利支天第六式岩熔、含角閃兩輝石富士
岩ヲ平行「ニコル」ノ下ニテ見ル、擴大五十倍、圖中
ニ見ユル礦物ハ斜長石、紫蘇輝石、磁鐵礦、燧灰
石ニシテ其他角閃石及普通輝石ノ小量ヲ存ス。
第二圖ハ摩利支天第六式岩熔、兩輝石富士岩二十
倍ノ大サ。

以上摩利支天熔岩第六式ノ記事ヲ參照セヨ

第十四版 第一圖ハ三ノ池第一式熔岩、含角閃橄欖兩輝石富
士岩、本岩ニ於ケル如ク角閃石ト橄欖石ト同時ニ
好發達ヲナスハ御岳火山熔岩中稀ニ見ル所ナリ。
第二圖ハ第十二版第一圖ノモノヲ一層擴大シテ角

閃石ガ受ケタル岩漿ノ融蝕作用及被包體トシテ斜
長石ヲ包裹スルヲ示ス、擴大五十倍。

第十五版 第一圖及第二圖ハ火山岩彈ノ一種ナル「割レ餅石」
(bread crust bomb.)ヲ示ス。

第十六版 第一圖ハ中央火口丘熔岩第一式ニ含マル、「ノーライト」ノ組織ヲ示ス、黑色ノ礦物ハ主トシテ輝石
ニシテ白色ノモノハ斜長石ナリ大サハ九分ノ八、
第二圖ハ「ノーライト」ガ熔岩中ニ包裹セラル、狀
態ヲ示セルナリ大サハ九分ノ四。

第十七版 第一圖ハ平行「ニコル」ノ下ニテ「ノーライト」ト富
士岩トノ接スル部分ヲ示セルナリ擴大二十倍。
第二圖ハ「ノーライト」ヲ直交「ニコル」ノ下ニテ二
十倍ニ擴大セルモノ。

第十八版 第一圖ハ微粒斑狀花崗岩ニシテ該岩漿ノ壓力ヲ受ケテ
盤大半ヲ占ムル古期火成岩、大サ自然大。

第二圖ハ斑狀花崗岩ニシテ該岩漿ノ壓力ヲ受ケテ
凝結シタルモノ、大サ自然大。

第二圖ハ黑雲母花崗岩ニシテ木曾山脈ヲ構成スル

モノ、大サ自然大。

第二十版 第一圖ハ微粒斑狀花崗岩ヲ平行「ニコル」ノ下ニテ二十倍ニ擴大セルモノ。

第二圖ハ斑狀花崗岩中ノ正長石、石英粒ノ被包體ニヨリ多穀構造ヲ呈セル狀。

第三圖ハ斑狀花崗岩中ノ斑晶石英ガ岩漿ノ融蝕ヲ受ケテ其ノ周緣甚シク凹凸ヲナス狀。

第四圖ハ同上

第二十一版 第一圖ハ斑狀花崗岩中ノ石英外部ヨリ壓迫ヲ受ケテ偏光面ノ變化即チ光學的分用(Feldertheilung)ヲ呈セル狀、但シ必ズ密度ヲ異ニセル被包體ノ周圍ニ起ル、被包體ハ石基ト同質ナリ PP 及 P'P' ハ「ニコル」ヲ通過スル光線ノ振動方向ヲ示ス四十八倍ニ擴大。

第二圖ハ黑雲母花崗岩中ニ含マル褐簾石ヲ示ス截斷面ハ略ボ P_o 面ニ平行ナリ擴大五十倍。

